

一羊会だより

発行
 社会福祉法人一羊会
 事務局 〒663-8241
 西宮市津門大塚町1-47
 電話 (0798) 31-1760
 FAX (0798) 31-1763



今号の表紙写真は、上甲子園すずかけ作業所の菓子班に所属する森下優（ゆう）さんです。クッキーの型抜きや生地を計量を主に担当する森下さんは、菓子班メンバーの中では最年少。朗らかで人懐っこい性格から、誰からも好かれる人気者です。製造の現場に立つまで人一倍の修練を重ね、高校生の頃から抱いていた『一羊会の菓子班で働きたい』という夢を実現されました。

特集

- 事業所紹介『こんぱす』…………… 3
- あとりえすずかけ新聞 …………… 4
- 地域共生ページ・Boleh! …………… 8



一羊会ホームページ
へはこちらから



西宮市へ要望書を提出しました

理事長 三浦 昇

いつも一羊会の取り組みにご支援いただきありがとうございます。

新型コロナウイルス感染状況もようやく下火になってきていますが、感染がある限り予断は許されない事は私たちも十分学習してきました。制限緩和になり活気のある日常が戻ってくるのを期待するとともに感染予防に十分配慮しながら社会経済活動をはじめとして、しょうがいのある人達みんなの活動も盛り上げていきたいものです。

さて、コロナ禍のなか、8月6日に一羊会と西宮市手をつなぐ育成会で西宮市に要望書を提出致しました。これは毎年、地域で働き暮らし、余暇を楽しむという目標に向けて継続して取り組んでいく中で、少しでも取り組みが進めやすくなるよう直接行政サイドに後押しをお願いするものです。

国制度だけでは不十分な制度上の不備を伝えながら市行政としての手立てを求めていくものです。自らも努力しつつ及ばないところを助成、後押ししてもらい、この姿勢を基本にこれまで取り組んできています。

今回の要望内容の概要は以下の通りです。

1. 特定相談支援事業所および障害児相談支援事業所への西宮市単独での運営面の助成
2. 移動支援事業について、サービス提供単価の引き上げと、新型コロナウイルス感染症にかかる特例措置の設定
3. 地域での生活基盤であるグループホームの取り組みが前向きに進むような推進施策の検討
4. 優先発注業務について、作業量の拡充

以上の4点ですが、計画相談支援事業を安定して運営していく為には、そもそもの制度設計が実態と合っておらず毎年多額の赤字（累積額約5000万円）の中で維持している現状に対して基盤整備

の補助を要望するものです。

移動支援事業は国庫補助事業の地域生活支援事業として位置づけられ、ホームヘルプのような個別給付の位置づけではないこともあり、単価も他の障害福祉サービスに比べ低いままで、ヘルパー確保に苦慮しています。

さらに今回の新型コロナ感染により厳しい状況が続いています。（昨年度約800万円減収）

制度の運営主体である市行政の裁量により移動支援事業の継続に向けて単価アップ等のお願いをせざるを得ないのが現状です。

グループホームについては自立した生活基盤の基本形の位置付けながら、消防法、労基法による規制、少ない職員体制では推進しづらい現状があり、しょうがいの重い人たちのホームの取り組みは思うように進んでいません。今後のグループホームの在り方についての論議も学会等でなされていますが、現時点でホームの必要性は否定できません。現状の打開策について行政も含め論議を重ねていきたいと考えています。

というように、地域生活支援に係る事業は生活基盤の整備とともに重要であるにもかかわらず運営面では非常に苦慮しているのが現状で、要望の中に市として何らかの手立てを打っていただきたい旨の意見交換をさせていただきました。

就労関連での優先発注は西宮市のご英断で進んでいます。がまだまだ量的には不足している現状の中で要望させていただきました。

このように、一羊会もいろいろと壁に直面している状況が続いており、今後の在り方等の検討が必要になってきました。

しょうがいがある人たちが地域でその人らしく働き暮らしていく基本理念に変わりはありません。引き続きご支援よろしく申し上げます。

事業所紹介

ジョイント 相談支援事業課 こんぱす



相談支援専門員 山口 有香

『こんぱす』は、障害者総合支援法における福祉サービスを使う児童から成人の方の「計画相談」(本人中心支援会議、計画作成の部分)と「基本相談」(なんでも相談)を行う事業所です。

本人やそのご家族、関係者からお話を聞き、本人中心支援会議をして、本人中心支援計画を作成し、関係先やご自宅へ訪問をしたり…、といろいろなことをしていますが、それは「本人が希望する生活を送れるようにするため」です。

西宮市があえて計画相談に「本人中心」という名称をつけたのは、この当たり前のことが出来なかった時代があり、また、今でも気をつけなければ本人ではなく周りの関係者(支援者や家族)の都合を優先した支援が行われてしまうことがあるからです。そのため、こんぱすでは「本人中心の視点」を常に考えながら相談業務をしています。

ある方は、お母様が本人と一緒に新しいグループホームへ今後の参考に見学に行こうと考えられました。その時点では、将来の生活について具体的な話をしていなかったため、どう本人に伝えるのが良いかを先にお母さまと支援者だけで話し合いました。本人がホームに興味があるかわからない中、見学したら混乱されるのでは、作業所の日常業務と違う予定をいれても大丈夫か、などの意見があり、まずは本人の負担がないように好きなドライブと組み合わせて見学に誘うことに決めました。とはいえ、本当に見学できるのか心配をしていたところ、自宅でお母さまが置いていたホームの案内を見て「(ホームを)見に行く」「この部屋がいい」、そして、実際に見学に行くと、「この部屋にします」と周囲の人たちがびっくりするほどはっきりと意思表示をされました。

数か月後、本人の希望するホームの部屋に入居することが出来、「とても良い表情(ホーム職員談)」で生活をされています。

もちろん、この方のように希望を明確に伝えられる方ばかりでなく、何をしたいかを選ぶことや周囲に気持ちを伝えることが難しい方、先のことなど想像することが簡単ではない方もたくさんおられます。

そのため、本人に関係する人たちと一緒に考え、必要なことを整理して相談業務を行っていますが、このように本人のことをご家族や支援者と共に考えている時、人と人が関われることは素晴らしいな、と温かい気持ちになります。

誰もが一人では生きられず、さまざまな関わりの中で生きています。単に支援する、されるという一方的な関係ではなく、お互いが理解し合い、支援もしたり、されたり、力をもらいながら生活していることはみなさんも実感されていることではないでしょうか。

人との関わり方にマニュアルはなく、試行錯誤しながらですが、これからも皆さんが希望する生活を送れるために一緒に関われることを楽しみにしています。

あとリえ すずかけ 新聞

第23便 2021.12
撮影／編集：神田 浩平

2021年9月24日～11月13日までの間、甲南大学ギャラリー・パンセにて、舛次崇さんと富塚純光さんの2人展【視点と視線】が開催されました。期間を通して、会場には甲南大学の学生や教職員の方々に加え、たくさんの一般の方々足を運んで下さいました。

この展覧会は、甲南大学の博物館実習生の皆さんが中心となって企画・運営された大学の企画展です。毎年、国内外で活躍する様々なアーティストの作品展示が企画される中で、今年はすずかけ絵画クラブの舛次さん富塚さんの両名が選ばれました。



展示された作品の数は18点。壁面に絵を配置する順番も実習生の皆さん自身が考え、会場が設営されました。



実習生の皆さんがデザインした展覧会のチラシ（表面）



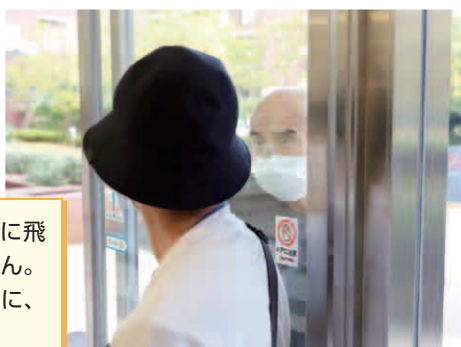
出展作家の富塚さんも会場へ。ご自身の絵を眺め、作中の物語の書き下し文を朗読したりしながら、展示を楽しまれました。



10月17日には、関連イベントとしてダンサーの岩下徹さんを招いた即興ダンス&トークショーが開催されました。舛次さんの絵と富塚さんの絵、そして展示空間から感じ取ったものを表現した岩下さんのパフォーマンスを、集まった70名近い観客の皆さんは息を呑むように見つめました。

舛次さんの絵の前では柔らかく大きな動きが、富塚さんの絵の前では鋭く細かい動きが多く体现され、時にコミカルに、時に情緒的に展開された珠玉の30分間。ふと気づけば無心となって、ただ岩下さんの姿を目で追い続けている自分がいました。

コロナ禍で長らく忘れていましたが、同じ空間に人が集いパフォーマンスを共に体感するということの喜びを再び知ることができた素晴らしい瞬間でした。



ふいに開いた自動ドアから軽やかに飛び出して、中の様子を伺う岩下さん。ユニークかつ予測不能なその動きに、誰もが魅了されました。

作業所 探訪

20代から70代までの幅広い年齢の方々が通所するすずかけ第2作業所。利用者の皆さんは、日々どのような作業をされているのでしょうか。今回は、作業所内で行われている内職作業について紹介したいと思います。

歴史と伝統の仕事“ユニテン”

すずかけ第2作業所では現在5～6つの企業から作業を委託されています。その中で最も委託量が多いのが株式会社ユニテンさんから頂いている仕事です。

『株式会社ユニテン』はボルト、ナット、各種ファスナーといった締結部分や機械加工品の販売をされている会社で、10年以上前からすずかけ第2作業所に作業を委託してくださっています。その長い歴史から、職員や利用者の皆さんからは『ユニテン』と愛着を持って呼ばれている作業です。



作業場では、大小様々なボルトにナットやワッシャー

を付けてワンセットにするという作業を利用者の皆さんが担い、横で職員が検品を行うという流れで作業が進められていました。納品されるボルトは自転車置き場のタイヤ止めや船のエンジン周り、キャタピラのタイヤなど様々な物の締結に使われているそうです。

慣れた手つきで作業に取り組むひとり一人の表情には、長年に渡って作業を担ってきた自負が滲んでいる様に見えました。

新風吹き込む！ ネット販売商品のシール貼り作業

今夏から新たに始まった少しユニークな仕事があります。それは、ネット販売で扱われている商品に、ネット販売業者さんが商品管理する為のバーコードシールを貼るという作業です。

販売業者さんから届けられる商品は多種多様でした。ヘアトニックや美容液、電球にマスクといった生活用品から、クッキーのギフトボックスや調味料といった食品、中には、フクロモモンガの餌といった普段なかなか目にかかることのない変わった商品もあり、眺めているだけでも楽しいラインナップ。シールを貼る商品が毎回様変わりしていくため、利用者の方々の人気も高い作業だそうです。また、高齢になった方や、比較的しょうがいの重い方でも携われる仕事であるということで、今後の展開に可能性を感じる作業でした。



シールを貼る小山充基さん。ご自身が作業で扱った商品が、実際に店頭ではどのように並んでいるのか確認するため、ショッピングモールへ見に行かれたそうです。

一羊会

職員研修の紹介

～アセスメント研修～

カノン今津 課長 安田 文彦



アセスメントとは、サポートを必要としている利用者さんの発達や理解の状態、コミュニケーションの取り方、対人関係の持ち方、特徴や得意なことや苦手なこと、好きなことや嫌いなこと、生活状況や成育歴、取り巻く人・モノ・サービスなど、あらゆる情報を把握することを指します。そうして把握した情報をもとにサポートの方針や方法を決定します。今回取り上げる「アセスメント研修」はその中でも、個人的な特徴を知ることに特化して、NPO法人自閉症eスタイルジャパンが開発した「評価キット」を使います。しょうがいの一般的な特徴を踏まえて、個人的な特徴をよりよく知ることができます。「できること」「難しいこと」「できそうなこと」に細分化して捉え、適切かつ確かなサポートを考える材料の一つにします。利用者さんと事業所で一緒に過ごす時間を重ねて、お互いによりよく知り合っていく機会をいただいています。この研修ではその貴重な場所から少し離れて、別の視点で利用者さんを知るために学んでいます。参加した職員から、「普段、見過ごしがちな細かい仕草やそこから推察できる視点が得られた」「苦手な部分を見てしまいがちだったが、得意なところにも注目できた」など、それぞれに得るものがあったようでした。

ありがとうございました

寄贈のお礼

● 一般財団法人 高友福祉積善会様 ●

● 一羊園

福祉事業助成金を頂き、簡易移乗リフトを購入させて頂きました。

長時間立った姿勢を保つことが難しくなった方への支援に活用させて頂き、ご利用者、職員双方の負担や不安の軽減に繋がります。この度は本当にありがとうございました。



● すずかけ作業所

福祉事業助成金を頂き、2m×1mの多肉植物育成棚（写真の棚が6台分）と育成に必要な土やポット等を購入致しました。高齢になっても働きやすい軽作業として展開していきたいと思っております。ありがとうございました。



法人・事業所御寄付の報告(敬称略・順不同)

2021年7月1日～2021年10月30日

*法人

一羊会後援会 三浦昇 2件

*一羊園

近藤直哉 関本弘子(2件) 高野重子(2件) 上林正芳 森野和雄 北村典子 大山美紀子 井上和巳
 公原 功 山口 苑 天野朗代 芝 桂子 一羊園家族会 濱 伸子 岡田宏之 中島一敏
 田中美英子 杉本信子 脇田捷也 矢萩祐子 簾編宗秋 匿名(2件) 25件

*武庫川すずかけ作業所

平野弘子(4件) 塩口正之 5件

いつもご協力・ご支援ありがとうございます!!

2021年度一羊会後援会会費(敬称略・順不同)

(2021年8月1日～2021年10月31日までのご入金分を掲載)

*法人・団体の部

(株)新井組 (株)F&Iクリエイト 大関(株) (株)岡崎石材店 (一社)西宮市薬剤師会 平田建築設計(株)
 (株)トラスト・システム 7件

*個人の部

天野朗代 梅澤茂樹 太田博(5口) 奥田幸子 金井治夫 川越アキミ 北村典子(2口) 栗原裕実
 近藤真由美 柴田美子 清水清三郎 下浦洋子 高野重子 瀧川千津子 瀧川秀樹 嶽保広
 田中京子 谷寿夫 椿本和生 中島忠男 中村絢子 浜田良子 福田百合子 堀江史子
 光武眞里 三原まゆみ 宮崎隆行 宮脇葉子 八木米太郎(1.5口) 八木名見子 山田賢司
 吉村武代 すずかけ労働センター保護者会(17口) 33件

2021年度一羊会後援会御寄付(敬称略・順不同)

(2021年8月1日～2021年10月31日のご入金分を掲載)

*法人・団体の部

サンコウ消毒 税理士法人丸岡&パートナーズ 社会保険労務士法人溝口社会保険労務士事務所 3件

*個人の部

井上尚子 大目修平(2口) 神尾ツタエ 小林義典 近藤真由美 清水清三郎 簾編洋子
 千翔有峰 高谷知子 田中京子 谷寿夫 寺尾郁子 中島一敏 馬場光子
 万竝建二 森岡宏夫(2口) 吉村武代 17件

口座名義 一羊会後援会 【銀行】三井住友銀行 西宮支店 普通 3007061 【郵便振替口座】01190-8-66322

※受領証については、払込取扱票の振替払込請求書兼受領書をもって後援会の受領証とさせていただきます。
 別途受領証が必要な場合はお知らせください。

募金箱についてご報告

ついに一羊会後援会の募金箱が完成しました。
 新しくなった後援会リーフレットと共に、法人内の事業所やお取引のある企業の皆様のとこに置かせていただいています。
 今後とも一羊会後援会をどうぞよろしくお願いいたします。



Boleh(ボレ)はマレーシア語で「できる」を意味します。

このページでは地域共生をテーマとし、一羊会と地域の皆様方との繋がりをお伝えしていきます。

いい仕事は、いい会話から

今回紹介させて頂く「株式会社ビー・プランニング」さんは、現在の一羊会ホームページを制作・管理して下さっている会社です。阪神西宮駅近くにオフィスを構え、グラフィックやウェブのデザイン、広告の企画立案や制作などの仕事をされています。

一羊会がビー・プランニングさんと仕事のお付き合いさせて頂くことになったのは、当法人のホームページをリニューアルすることになった2017年のことでした。同じ西宮の地で事業を展開されているビー・プランニングさんの2人の社員さんとコンセプトの話をして頂いた時に、おふたりの朗らかな人柄に触れて、「この人達とならいいページを作れそうな気がする」と直感的に思ったことを今でも覚えています。

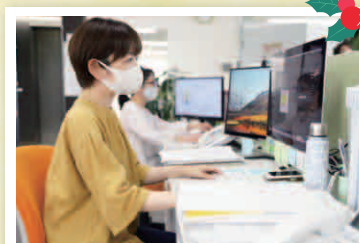
『ひとりひとりがその人らしく、社会の中で生きていくこと』というテーマに合わせてビー・プランニングさんが制作してくれたトップ画は、一羊会の新たなアイコンとして現在では定着してきている様になります。

ビー・プランニングさんの公式ホームページが開くと、まず『いい仕事は、いい会話から』という言葉が飛び込んできます。この言葉を体現するかの様に、ビー・プランニングの社員の皆さんはクライアントとの対話をとても大事にされているなぁといつも感じます。こちらが無知なあまり、時には無茶な相談を持ち掛けてしまう事もありますが、親身になってアドバイスを下さり、いつも助けられています。

今回、ビー・プランニングさんのオフィスにお邪魔して、代表取締役の達川正美さんにお話を聞かせて頂きました。1999年に会社を立ち上げた達川さん。神戸や大阪にもアクセスしやすい西宮にオフィスを構え、この地に根差しながら広い世界で仕事を展開していきたいという思いで、会社を大きくされてきました。

コロナ禍で会社が大きな影響を受けている今こそ、クライアントの状況に合わせてコミュニケーションをとりやすいように自分達が変わらないといけないと語られた達川さんの言葉に、どんな状況でも「人との対話」を大切にする会社の原点を感じました。

そんなビー・プランニングさんと、これからも「いい会話」を繰り返しながら、地域の方々や当法人を支えて下さる皆さまに向けた「いい発信」を心がけていきたいと思います。



▲一羊会ページのデザインを担当してくれた平家さん。ページ制作時には、イメージを掴むため、実際に一羊園に足を運んで下さいました。



▲毎日15時になると始まるラジオ体操。リフレッシュ効果、心身ともに健康である為の日課だそうです。



右から
代表取締役の達川さん、デザイナーの平家さん、
ディレクターの山本さん